

3年社会科 [公民的分野] 学習指導案 (略案)

岩手県立一関第一高等学校附属中学校 教諭 内 宮 康 貴

1 日 時 平成30年12月18日 (火)

2 単 元 第4章 わたしたちの暮らしと経済 1節 暮らしと経済 (小単元：消費者問題と私たちの生活)

3 本時の目標

増加する消費者問題に関する資料をもとに、問題が増加している背景を考察し、自立した消費者としてどのような行動が求められるのか、説明することができる。【 社会的な思考・判断・表現 】

4 本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点・評価	教材・教具等
導入 12分	1. 「12のクイズで学ぶ自立した消費者」の問題に取り組み、消費者問題の具体例を想起する。 2. 消費者問題の相談件数が増加しているという事実をとらえる。 3. 本時の学習課題を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生向け教材を活用し、家庭科で学習した事項と関連付けて、考えさせる。 ・オレオレ詐欺対策など、消費者問題に関する広報が充実している一方で、相談件数は増加しているという事実気付く。 	・「12のクイズで学ぶ自立した消費者」 ・プリント
展開 30分	増加する消費者問題に対して、自分ができることは何か。		・プリント ・教科書 ・資料集
	4. 学習課題に対する予想と、課題解決に向けた見通しを立てる。 5. 個人で教科書や資料集をもとに、消費者問題を回避するためのポイントは何かを読み取り、整理する。 6. 消費者問題を回避するためのポイントを学級全体で共有する。 7. まとめた内容と、自分の生活と照らし合わせてこれから先、自立した消費者となる上で「不安な点」「知識が不足している点」などをまとめる。 8. グループで現在の「不安な点」「知識が不足している点」などを出し合い、それらの解決のアドバイスやヒントを、班員同士で出し合う。 9. 学習課題を再確認し、増加する消費者問題に対して、各個人が自立した消費者になっていく必要性を確認する。 10. 学習課題に対するまとめを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・現実的に今の自分自身ができることという視点で予想を立てさせる。 ・ポイントとなる用語や考え方は適宜プリントに記入させる。 ・「自立した消費者」というキーワードを手がかりに、ポイントとなる内容と現在の自分の生活を照らし合わせるきっかけをつくる。 ・内容の質を問わず、小さなことでも不安な点や知識不足な点を積極的に出すように促す。また、イメージできない生徒に対しては、実際の消費者トラブルを示し、対応できるかどうかを判断させる。 ・自立した消費者になっていくために必要なことを、教科書や資料集を活用しながら、互いに意見を出し合えるよう促す。 ・学習課題の「増加する消費者問題」と学習内容の核となる「自立した消費者」という考えを全員が結び付けられるようにする。 	
	評価の場面と観点 【社会的な思考・判断・表現】 10. 自立した消費者としてどのような行動が求められるのか、考察した内容やグループワークの内容をもとにして、学習シートへ記述し、説明することができる。		
	《生徒の記述例》増加する消費者問題に対応するためには、まず各個人が自立した消費者になることが必要だ。そのために、日常生活で商品を購入する場面でも、商品の情報をしっかりと判断しなければならない。また、普段から消費者トラブルに対する関心をもってニュースなどをみることも必要だ。さらに万が一、トラブルに巻き込まれたときには、速やかに消費生活センターなどに相談するなど、解決策を身に付けておくことも重要だ。		
終末 8分	11. 学習の自己評価をする。		・プリント
	《生徒の記述例》今日の授業で、消費者問題を回避していくためには、日常生活から自立した消費者として自覚した行動をすることが大切だと思った。また、実際の問題を考えてみると、今の自分には解決が難しそうなトラブルも多くあると感じた。まだ、中学生だが、大人になったときに困らないように、今のうちから知識を身に付けたいと思う。また、法律の内容をもっと詳しく調べてみたいと思った。		